

【NEWS RELEASE】

2021年3月31日

各位

株式会社三井住友銀行

四国化成工業株式会社に「ESG/SDGs評価融資」を実施

株式会社三井住友銀行(頭取 CEO:高島 誠)は、四国化成工業株式会社(代表取締役社長兼 C.E.O.: 田中 直人)に対し、「ESG/SDGs評価融資」を実施いたしました。

「ESG/SDGs評価融資」は、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所(代表取締役社長:谷崎 勝教)が作成した独自の評価基準に基づき企業のESG(※1)側面の取組や情報開示、SDGs(持続可能な開発目標)(※2)達成への貢献を評価し、取組や情報開示の適切さについての現状分析、今後の課題、課題への取組事例などを還元させていただき融資商品です。

今回の四国化成工業株式会社に対する評価結果は、「サステナビリティへのコミットメント」、「環境マネジメント」、「ローカル/グローバルコミュニティへの配慮」において非常に高い水準であると判断されました。企業経営において良好なESG側面の取組と情報開示を実施されており、また、事業を通じたSDGs達成への貢献意欲が高いとの評価となりました。

ESG側面の取組、情報開示では、以下の点等が評価されました。

- ① 長期ビジョン「Challenge 1000」を策定し、2030年に目指す姿として、独自の殺菌・洗浄・漂白技術による安心な衛生環境の提供等を通じて、企業価値を向上させていく方針を株主・投資家向けに分かりやすく開示されている点
- ② 事業活動に伴うCO2排出量の削減に向けて、2030年を目標年度とする数値目標を設定し、生産事業所における省エネ活動に取り組んでおられるほか、船舶バラスト水の適切な処理に必要な薬剤や、プリント配線板向け水溶性防錆剤など、独自の製品提供により環境負荷低減に貢献されている点
- ③ 事業を通じた社会的課題解決の取組として、災害時の被害を軽減する建材の普及や、衛生的な水の提供システムを途上国でも導入し始めておられる点

加えて、事業を通じて、SDGsが示す「目標3:すべての人に健康と福祉を」「目標6:安全な水とトイレを世界中に」「目標11:住み続けられるまちづくりを」「目標14:海の豊かさを守ろう」等の達成に向けて明確な意欲をお持ちです。

三井住友銀行では、「ESG/SDGs評価融資」により、お客さまのESG/SDGsへの取組を、金融を通じて支援してまいります。



船舶バラスト水処理装置
向け薬剤
「ネオクロール マリーン」



安全性に優れたアルミシステム塀
「ArtWall」



途上国での衛生的な
水の確保に貢献

<ご参考>

※1 ESGとは

ESGとは環境（Environmental）、社会（Social）、企業統治（Corporate Governance）の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。